

# 園長だより NO79

新型コロナウイルス感染症の感染者数が急激に増えました。移動の制限など緩和された後の夏季休暇期間、まだまだ、気は抜けません。軽い症状と言われながらも感染者増により医療体制はひっ迫しています。

コロナに慣れてしまった今、もう一度、日頃の生活を見直し感染防止対策に努めてみて下さい。

## 2歳児の育ちに目を向ける

幼稚園で働いていた私は2歳児の育ちについて関心を寄せる機会がありました。幼稚園と言えば3歳児からの入園であり、3歳児の保育をしていく中で入園前の発達過程が知りたいと思うようになった。もう30年も前のこと2歳児の育ちを知っていなければ3歳児の保育は成り立たないと考え保育園の生活に関心を寄せていった。

当時、大御所といえる保育園の園長が神奈川県におりました。歯に衣着せぬ話にズバツと本質をつく語りに憧れを抱くとともに神格化した先生にはなかなか近寄れない雰囲気がありました。

20代前半、長野県での研修会で夜の集いのレクリエーションの一部を若手数名で担当した、当時若かった私たちはその園長の逆鱗に触れ叱られた記憶があります。※行き過ぎたパフォーマンスがお怒りをかったわけです。



2022.7.29

20年近く前その神奈川県の保育園長が助言者を務める研修会があった。2歳児の育ちについての分科会であった私は予定が合わず、研修に参加できなかったが資料だけでも拝見できないものかと手に入れた。

### 感情のコントロール

やっと本題に入りました。その園長の2歳児観が知りたかった私は何度も資料を読みかえたものだった。

2歳児についてこんな記述があった2歳児は自我が芽生え生活の身辺処理ができるようになっていろいろなものに興味を示す。1歳半頃からその兆しがみえ2歳半から3歳は乳児の育ちの最後で自己コントロールが出来てくるとも大切な時でこの時期の保育は大事であると述べていた。

この時期に自己コントロールする力がしつかりつかないまま大きくなると何か起きたとき、自分を見つめることができずに解決できない。乗り越える力が弱いと必ずどこかで発散させることになる。

私はこの発散はどんなことだろうかと考えた記憶がある。自分の息子や娘の小さい頃を思いだしながらいろいと思いを巡らせた。泣く、癩癩(かんしゃく)を起こす、手足をばたばたさせて大騒ぎ、大人を困らせる事、いろいろ・・・よく見かける光景ですがスーパーのお菓子売り場で寝ころび「買って！買って！」を泣きじゃくる子ども、そんな姿であれば可愛いものである。

年齢があがり3歳になると先に述べたような発散から見せる姿が変わってくる。成長と共に感情の出し方が幾つも加わる。本来は自己コントロールができてくると発散は減少するが2歳の頃に上手くコントロールできないと発散はパワーアップする。モノにあたる、手あたり次第に手を出したり、友達をたたいたり、押したり、嫌で逃げだしてしまったりと発散はエスカレートする。自己コントロールには怒りや苛立ちを年齢なりに抑え年齢なりに寄り添う大人の援助を受けてコントロールできることと考える。2歳なりに上手にコントロールする力が養えないのであれば私は3歳で学び直しをすればいいと考えている。寄り添う大人と一緒に学び直し援助してあげなければ、どんどん成長し自律できない大人になってしまうと危惧する。

※自立する力を養っている時期であり2歳児で必ず獲得していなければならないというものではありません。

※自己(感情)のコントロールは育ちにより異なります。

### ひとり、一人が大切にされること

日常よくある光景である。友達の使っていた玩具をぱっと奪いとっていき、このような場合「とっちゃダメでしょ」とつい大人の価値観で怒ってしまう。その子の気持ちを察し共感してあげ一緒に考えてあげる、共感してあげること次へつながら考える力を養い育てることができる。自分を見つめることもできる。感情的又は高揚していた気持ちにも間ができたことでクールダウンできる。

そのような対応の積み重ねと経験が自己コ

ントロールの源にあるように思える。やりたい、やってみたくと行動に移せる主体性とその時々で感情の変化に対応できる自律心がバランスよく獲得していけるように援助したいと考えます。

〇〇になりきり遊ぶことが大好きな2歳児様々なことに興味を示し、やりたいやりたいと要求する。友達と一緒にの事をしたい、同じものを使いたい、なんでもマネする、そんな日常から友達の関り方や遊びの中でのルールなどを学んでいく、当然友達とのぶつかり合いもある。けんかではなく思いの衝突である。

そんなとき「仲良くしようね」と言い聞かせるのではなく双方を受け止めてあげること

- ・自分の気持ちを受け止めてもらい
- ・自分の気持ちに気づき
- ・友達の思いにも気づく

なんとと言っても「自分は大切にされているんだー」と言う思いを抱ける機会に出会うことが大切と考える。

天真爛漫の2歳の時期に大人の予測もしない姿を見せることもある。自我をフルに出すこともある。子どもに寄り添い育てていくことはそう容易いものではありません。

神奈川の大御所の園長から2歳は大切な時期だからと教えられたこともう一度、目の前にいる子ども達の姿に照らしながら保育を考えていきたい。

2歳に限らず0歳からの継続的な育ちを考慮していくことも忘れてはなりません。

(園長 廣部 信隆)

